

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	愛慕心唱：詩歌
Author(s)	藤田，徳太郎
Citation	龍南， 1 8 1： 8 6 - 8 7
Issue date	1922-03-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7850
Right	

愛慕心唱

藤田徳太郎

妹がふみけふも來らず庭に散れる梧桐の枯葉
を見盡しにけり

久方の天おしてれる月はあれどわがいふせさ
はうちはれぬかも

まちまちてこよひわが手に得てしかも妹がま
さでに書ける手紙を

しばらくは封を切り得ず眞愛^{まな}しき妹が名まへ
に見入りたりけり

満月の夜に

天なるや月は妹かもつくづくと眼には相見て
手に取られなくに

相思はぬものにしもあらず或る時は妹がひと
みの我にありけり

この夕べおちゐて聞けばほそぼそと虫の聲す
も秋近みかも

たまたま病みこやせるに近きあたりに住みし年若く顔よき乙女
の毒のみて死にきと聞きてよめる

二つなき命にあるを愚人しれびとのわぎもは棄てゝ逝
きにけるかも

工たくみらがうつ墨綱の一筋に世をはかなみと死に
かゆきけん

若草の戀にしなへて逝きしかも若きわぎもの
心こころ知らましを